

熊本から双子 テークオフ

パイロットへ 崇城大卒業

全国でも珍しい航空機のパイロット養成コースがある熊本市西区の崇城大で学んだ安達航大さん(22)と雄大さん(22)の二卵性双生児の兄弟が、パイロット訓練生としてそれぞれ全日空と日本航空に入社することが決まった。2年生の時に起きた熊本地震で大学が被災しフレハブ校舎などでの受講を余儀なくされてきたが、大空への夢を兄弟で果たした。

【城島勇人】

茨城県つくばみらい市出身の2人は幼い頃から父勉さん(52)に連れられ、羽田空港近くの公園で飛び交う飛行機を眺めるのが楽しみだった。高校時代にパイロットになろうと決意。崇城大工学部のパイロット養成コースに進学することを決めた。

パイロットを養成する宇宙航空システム工学科・航空操縦学専攻(定員20人)の4年間の学費は授業料や実習費などで1人約2000万円かかる。建築関係の会社を営む勉さんは2人の決意を確かめるため、1人当たり年間104万円の授業料が免除される特待生に選ばれることを条件に進学を認めた。

厳しい条件をクリアした2人を2016年4月、熊本地震が襲った。当時住んでいた下宿に大きな被害はなかつたが、最大震度7を2度観測した熊本県益城町の隣にある同県菊陽町の空港キャンパスが被災。講義棟やシミユレーター棟の復旧に1年かかり、学生らは格納庫に避難させた。

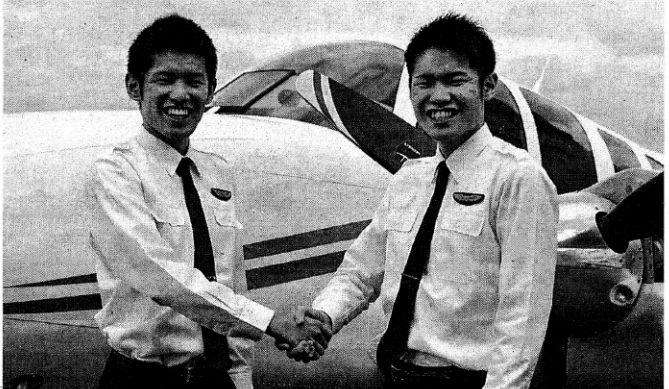
「ANAとJALに内定 地震復興の役に立つ」

2度観測した熊本県益城町の隣にある同県菊陽町の空港キャンパスが被災。講義棟やシミユレーター棟の復旧に1年かかり、学生らは格納庫に避難させた。操縦士技能証明、計間のフライト実習をこなし、自家用と事業用

器飛行証明などの資格を取得。航大さんが技量と知識のいずれも優秀な学生を表彰する日本航空機操縦士協会(東京)の会長奨励賞を受けるなど、2人も学内トップレベルの成績を収めた。

就職活動では航大さんが全日空、雄大さんが日本航空に相次いで内定。幼稚園から大学まで一緒だった兄弟は初めて別の道を歩むことになるが「2人で航空業界を盛り上げた」と前を向く。入社後は訓練生として旅客機などの操縦資格を取り、順調にいけば3年後にはコックピットに座れるという。

パイロットを養成する宇宙航空システム工学科・航空操縦学専攻(定員20人)の4年間の学費は授業料や実習費などで1人約2000万円かかる。建築関係の会社を営む勉さんは2人の決意を確かめるため、1人当たり年間104万円の授業料が免除される特待生に選ばれることを条件に進学を認めた。



パイロット訓練生として全日空と日本航空に入社する兄の航大さん(左)と弟の雄大さん

熊本空港がある益城町には地震から3年になろうとしている現在も多くの仮設住宅が建ち並び、復興は道半ばだ。20日に大学を卒業した2人は「地震後も実習を続けられたのは教官や被災された皆さんの支えがあったからこそ。パイロットとして熊本に多くのお客さんを運んで、復興の役に立ちたい」と話した。